

第1学年 学級活動指導案

平成27年1月16日（金）第5校時

安田町立安田小学校

第1学年（男子3名，女子10名，計13名）

場所 1年教室

指導者 武井 典子

1. 題材「揺れの後に続く危険とは」（2）カ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2. 題材について

（1）題材観

本校は土佐湾に面し、海岸線より直線で300m、海拔約10.5mに位置している。近い将来に起こるであろうと予測されている南海トラフ地震に備え、今年度、本校では、「災害に関する正しい知識を身につける。」「非常時に自らの命を守るために、日頃から安全に意識して生活できるようにする。」「仲間や地域のために進んで行動し、共に助け合う精神と態度を養う。」という防災教育目標を掲げ、緊急地震速報を活用して様々な状況を想定した避難訓練や引き渡し訓練などを実施し、防災に関する学習に取り組んでいる。

また、低学年の重点目標は、「①発生時には、教師や大人の指示を確実に聞き、指示通りに適切な行動ができるようにする。」「②発生後には、進んで家の手伝いをするなど、家族の一員として積極的に行動することができるようにする。」「③自然災害の種類や発生メカニズムを知り、それらに備えた学校及び地域の取り組みがあることを理解する。」ことをあげている。

子どもたちが、日常生活の様々な場所で地震が起きた時の安全な身の守り方を知ることは、いざという時にとっても大切なことになる。地震による危険は揺れや津波以外にも火災や土砂災害なども考えられる。阪神・淡路大震災では火災による延焼で甚大な被害がもたらされている。そこで、地震発生後の火災から自分の命を守る避難行動の仕方を学習し、教師や大人の指示を確実に聞き、安全で適切な行動ができるようにさせたいと考え本題材を設定した。

（2）児童観

本学級の児童は、これまでに、起震車体験や緊急地震速報を使つての避難訓練を、授業中や休み時間などいろいろな場面を想定して繰り返し行つてきた。近い将来南海トラフ地震が起こるかもしれないということは知っており、真剣に訓練に取り組んでいる。また、夏休みには親子で自分の家の近くからの第一次避難場所や避難経路を確認したり、二学期には津波の恐ろしさを知り、津波から自分の命を守るための避難方法を考える学習をしたりしてきた。11月に実施した防災アンケートの結果からも地震や津波に対する防災への意識が少しずつ高まっていることが分かる。しかし、児童は地震が起きた後に火災や土砂災害など二次災害が起こるかもしれないということをまだ十分理解できていない。また、火災を想定して行つた避難訓練では、ハンカチで口や鼻を覆つたり、身

を低くして煙に注意するなどの避難行動ができていない児童がほとんどであった。そこで、揺れの後には火災が起こる危険があることに気づかせ、ここでは地震の後の火災から自分の命を守るための避難行動の仕方についてみんなで考えていきたい。

(3) 指導観

地震の揺れの後の危険として、津波以外にも火災や土砂災害など様々な二次災害が起こることが考えられるが、本時は、大きな揺れの後に火災が起こる危険があるということに絞り込む。まず、写真を手がかりに、地震発生後の火災時の危険として、火、熱、煙、避難時の人ごみがあるということを押さえさせ、どのような状況の中でも教師や大人の指示を確実に聞き、自分の身を守るために避難しなければならないということに気づかせたい。そして、火災が発生した場合は周囲に大声で知らせること、身を低くして煙に注意すること、延焼するもののない十分な広さのある場所へ避難することなど、自分の命を守るための基本的な避難行動の仕方や避難するときに気をつけることについて話し合わせたい。さらに、地震の後の火災から身を守るためには、学んだことを活かして自分だったらどのように行動するのかを自己目標として考えさせたい。

3. 指導のねらい

○大きな揺れの後の火災の危険から、安全に避難できる方法を考え、行動することができるようにする。

4. 学級活動の評価規準 (2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

5. 事前の指導 (活動)

時数	場	○指導 (活動) のねらい ・指導 (活動) 内容	目指す児童の姿◎ (評価方法)
1	学校行事 (集中避難訓練期間)	○防災に対する意識を高める。 ○地震発生時における安全かつ確実な避難方法を身につける。 ・告知なしの地震に対する避難訓練を行う。(いつ・どこにいても揺れから身を守る避難行動)	◎地震発生時の避難行動を理解している。 【知識・理解】 (振り返りカード)

6. 本時の指導（活動）

（1）本時のねらい

○大きな揺れやその後の火災から適切に避難する方法について考えることができる。

（2）展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の姿◎ (評価方法)
導 入	1. 揺れの後にも危険があることを知る。	・揺れの後の危険として、津波や土砂災害、火災などがあげられることが考えられるが、ここでは火災について学習することを伝える。	
展 開	2. めあての確認をする。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題 地震の後の火事から、命を守るにはどうすればよいただろう。 </div> 3. 火災時の危険について考える。 4. 火災が起きた場合の正しい避難の仕方や避難するときの気をつけることは何かについて話し合う。 ○火からの避難 ・火元から離れる ・下の方に避難 ○熱からの避難 ・壁やドアの温度を感じながら避難 ・広い場所へ避難 ○煙からの避難 ・身を低くして避難 ・ハンカチ等で鼻と口を覆う ○避難時の人ごみの中での避難 ・「おはしも」の合言葉で落ち着いて避難	・火災が起こると、大きな被害につながることを確認する。 ・写真・映像（阪神・淡路大震災時）を提示し、地震の後の火災時の危険（火・熱・煙・避難時の人ごみ）について気づかせる。 ・児童の発言から、火災の時の危険ごとに避難の仕方をまとめる。 ・低学年の児童に消火活動は難しいので、火災を発見したら、「火事だ」と叫んで周りの人に知らせたり、大人を呼びに行くなど自分ができることを考えさせる。 ・ガラスや壁が崩れたり、物が倒れていたりしていることもあるので、足元や周りの状況に注意して避難する必要があることに気づかせる。 ・煙は高い所に集まるので、身を低くして避難することについても気づかせる。 ・「お（押さない）は（走らない）し（しゃべらない）も（もどらない）」を活用し、焦った行動による危険性について考えさせる。	◎大きな揺れやその後の火災からの避難方法について考え、判断している。 【思考・判断・実践】 （ワークシート・発表・行動観察）
終 末	5. 地震の後の火災から命を守るにはどのように行動するのか、自分の言葉でまとめる。	・火災から身を守るためには、自分だったらどう行動するのかを考えさせ、発表させる。	◎火災から安全に避難する行動を決めている。 【思考・判断・実践】 （ワークシート・発表）

(3) 準備物

ワークシート, 火災時の写真, 掲示資料「おはしも」, 防災頭巾, ハンカチ

(4) 板書計画

じしんのあとのかじから, いのちをまもるにはどうすればよいのだろう

写真

写真

○足もとやまわりのようすに
ちゅういしてひなんする

★「火」からの
ひなん

- ・火もとからのひなん
- ・下のほうににげる

★「ねつ」からの
ひなん

- ・ドアをさわらない
- ・ひろいところに
ひなん

★「けむり」からの
ひなん

- ・からだをひくく
- ・ハンカチで口や
はなをおおう

★「人ごみ」からの
ひなん

- ・おさない
- ・はしらない
- ・しゃべらない
- ・もどらない

ひなんのしかた

- ・かさいをはっけんしたら大ごえでさけんでまわりのひ人にしらせる。
- ・火もとからはなれ, みをひくくし, けむりをすわないように, おちついてひなんする。

7. 事後の指導 (活動)

時数	場	○指導 (活動) のねらい ・指導 (活動) 内容	目指す児童の姿◎ (評価方法)
	帰りの会	<p>○学習したことを生かし, 火災から安全かつ適切に避難する。</p> <p>・地震後の火災を想定した学級での避難訓練をする。</p>	<p>◎地震後の火災時には安全かつ適切に避難行動がとれている。</p> <p>【思考・判断・実践】 (振り返りカード)</p>